

通常総会報告

平成22年4月20日、東京都港区明治記念館「若竹の間」に於いて平成22年度の第一回通常総会が開催されました。

まずは今回の議長を務める澤野道玄前会長により、平成21年度の事業報告がされた後、原 登新会長が紹介されました。その他、平成22年度の研修事業や会則の改訂など6つの議事について話し合いが行われ、新体制となるにあたり、有限会社齋藤漆工芸が新たに理事として承認されました。本総会終了後には、理事一同で文京区の文化財建造物保存技術協会本部、文化庁へのご挨拶に伺いました。



文化庁では、今後の社美協の在り方について武内正和文化財調査官から助言を頂戴しました。調査官は過去3年間の補助事業を振り返った上で、保存技術に対するより深い理解を養うためにも、現物を前にした「実地研修」の重要性を説かれました。そして、今後ともそういった場での技術者・設計監理者の両者を交えた意見交換を活発に行うことにより、プレゼンテーション力を養うと同時に、技術の向上へと繋げていくてくださいます。さらに、お話しは修理の実

状にも及び、文化財の修理方針策定根拠を社美協の会員同士で共有し、また、基準を明確化していくようにと、ご指導いただきました。

*

秋には会員研修と時期を同じくして、第二回通常総会が10月23日に静岡市葵区の静岡グランドホテル中島屋で開催されました。新規賛助会員申請、協議会で保有する研修備品や資材の保管先と管理方法といった議事その他、話題は多岐に及びました。なお、今回の新規賛助会員の申請は、投票の結果、否決となりました。



文化財を支える 「伝統の名匠」

【期間】平成22年9月19日・20日



「伝統の名匠」展は、全国の保存技術団体が一堂に集結し、国内における文化財の修理や材料、道具などに関する現状を関係者、また一般の方々にも広く知っていただくという趣旨で毎年文化庁の主催で実施されています。

平成22年度は、平城遷都1300年記念事業で賑わう奈良県奈良市の平城宮跡での開催となりました。漆塗り、彩色、金具、丹塗の四部門を有する当協議会では、多種多様な展示物と彩色・金箔押しの体験コーナーで、たくさんの方々に足を運んでいただくことができました。

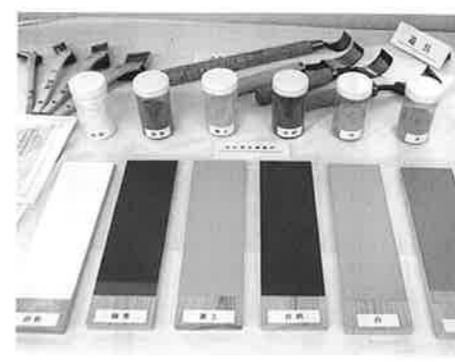
ふるさと文化財の森 「文化財建造物保存活用 公開セミナー」

【期間】平成22年11月6日・7日



今年度もふるさと文化財の森「文化財建造物保存活用公開セミナー」が公益社団法人全国社寺等屋根工事技術保存会の主催で行われました。

今回は京都市文化財建造物保存技術センターを第一会場、清水寺の境内を第二会場、と二ヶ所に分かれての開催となり、それぞれの立地とスペースを活か



した展示と、体験コーナーを実施しました。第一会場では、パネル解説や丹塗施工模型・手板、材料・道具を並べ、見て、読んで情報を得る「展示」を主体に、漆、彩色、丹塗各部門のお仕事をご紹介します。

一方、第二会場となった清水寺境内では実際の作業の一端に触れていただくこと、「絵馬の彩色」と「金箔押し」を実技体験コーナーとして日替わりで設けさせていただきました。



体験コーナーを終えて —技術指導担当より報告—

「絵馬の彩色」

体験指導…有限会社川面美術研究所

普段馴染みのある絵具とは違い、初めて日本画画材に触られる方も多く、その色づかい、細い墨線の描きかた等、指導員に積極的に質問する姿が見られました。来場の方には、「清水寺に観光に訪れ、思いがけずこういった日頃体験できない機会がもてたことは良かった」との声もあり、また、久々に筆を握られ一時間に亘る大作を完成させ、晴れやかにテントを後にした方もいらっしゃいました。

このような取組みを通じ、テント内で展示しました組物をはじめ建造物彩色に興味をもっていただくことは意義があることと思います。



「金箔押し」

体験指導…株式会社さわの道玄

実際に金箔に触れて、箔押しを体験する機会というものなかなかないため、体験に訪れたみなさんからは貴重な体験ができたとの声を聞かせていただく事ができました。

また今回は屋外でのワークショップであったので、現場での手作業の難しさも感じていただけたのではないのでしょうか。清水寺という、国内外からたくさんの方が訪れる場所であったこともあり、例年に比べて体験者数が多かったと感じましたが、このような機会をより多くの人に体験していただきたいと思っています。

